

人の心はいつの世も、光と影を抱えてうつろう

菊池寛が鋭く描く人心の底知れぬ深淵

そこに新たな光を見出す者、また悔やみ続ける者——

【恩讐の彼方に】

主殺しの罪を犯した市九郎は、己の罪深さを悔やみ出家し全国行脚の旅に出る。数十年が経ち、贖罪の日々を送る彼のもとにある男が訪れる。その不思議な半生を通して露わになる人間の真の姿。罪、恨み、復讐、赦し…。恩讐の彼方にあるものとは。

【藤十郎の恋】

元禄時代、名優坂田藤十郎は苦悩の只中にあった。彼は芸を極めるために偽りの恋を仕掛け、役の工夫を成し遂げる。大成功を納めた舞台上で万雷の拍手を浴びるが…。『役者論語』に収められている初代藤十郎の芸談を基にした作品。

竹元真一郎

劇団前進座俳優養成所第一期生、劇団前進座に入座。主な舞台に文化庁芸術祭優秀賞受賞作「さんしょう太夫」の二郎、高野長英賞受賞作「水沢の一夜」啓四郎、文化庁芸術祭賞受賞作「怒る富士」初代佐太郎。有馬稲子「女優須磨子の恋」新橋演舞場公演の演技で作家賞受賞。TV 出演には、伝七捕物帳、東芝日曜劇場、NHK 大河ドラマ「勝海舟」等。退座後、名古屋にて演劇教室「ブレイルーム」開設。「ことばの会えくせるしあ」自主公演の企画・制作・演出。ローズ倶楽部講師。

竹元まき子

2歳より日本舞踊を始め、師範免許取得。国立劇場、新橋演舞場等に多数出演。長唄、義太夫、声楽と異なるジャンルで声を磨く。琴生田流奥伝取得、鼓、三味線等芸事を幅広く修め劇団前進座に入座。退座後、ことばの会えくせるしあを立ち上げ、朗読家として活躍。「現し身のことばたち」シリーズをライフワークとして、従来の朗読、語りの枠を超えた舞台空間を創り上げている。中日文化センター、他朗読教室主宰。

菊池寛 1888 (明治 21 年) -1948 (昭和 23 年)

小説家、劇作家。高松市に生まれた。上京後、東京高師、明治大学等に籍を置いた後、第一高等学校に入学。同級生に芥川龍之介、山本有三らがいたが、卒業直前に友人の罪を着て退学、改めて京都帝国大学英文科に入学。卒業後、時事新報社に入社し小説を発表。新進作家としての地位を確立し、次いで『恩讐の彼方に』『藤十郎の恋』など現実主義の立場からの明快なテーマ小説を発表して世評を得た。ヒューマニズム、リアリズムの作家として多くの読者を持ち、後世の作家たちにも多大な影響を与えた。『父帰る』『真珠夫人』『屋上の狂人』など。

実業家としても文芸春秋社を興し、文芸家協会を設立し、芥川賞・直木賞の創設に携わった。著作権の擁護、作家の育成、文芸の普及に努め、文壇の大御所と呼ばれた。

2022.10/8 (土) 13:30 開演
13:00 開場

全席自由 4,000 円 (当日 4500 円)

*未就学児のご入場はご遠慮いただいております

チケットのお求め方法

◆ことばの会えくせるしあ ☎090-9911-0428

*FAX0584(56)0211でもお申込み頂けます

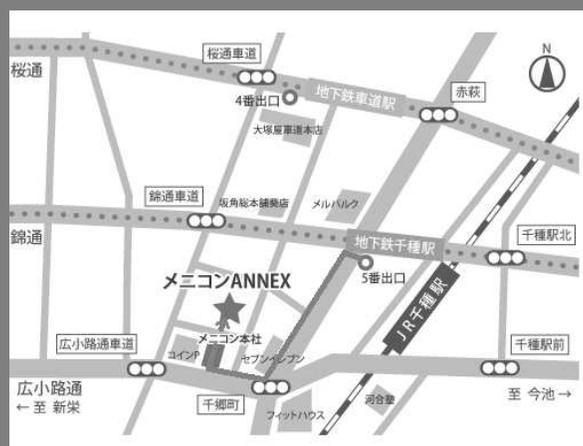
◆名古屋市文化振興事業団チケットガイド

(ナディアパーク 8 階) ☎052-249-9387

*本公演は新型コロナウイルス感染拡大予防対策を講じて実施します
*チケット半券に氏名、電話番号をご記入の上ご来場ください

HITOMI ホール

名古屋市中区葵三丁目 21 番 19 号 052-935-0918



◆メニコン ANNEX はメニコン本社の北側の建物です
【JR】千種駅地下改札口方面 5 番出口より徒歩 4 分
【地下鉄】東山線:千種駅 5 番出口より徒歩約 4 分
桜通線:車道駅 4 番出口すぐ左折。徒歩約 7 分